

## 航空の未来を支える「SAF」のこれまで・これから

## SAFに関する取り組みの軌跡



## 航空業界の脱炭素化を目指して

皆さまにご搭乗いただいている飛行機は、原油由来のジェット燃料によって空を飛んでいます。航空業界では今、航空輸送にかかわる二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を削減すべく、従来の燃料を環境にやさしい燃料に置き換える取り組みを一丸となって進めています。持続可能な航空燃料「SAF (Sustainable Aviation Fuel)」という名称を、皆さまも一度は耳にされたことがあるかもしれません。

JALグループも、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ(ネット・ゼロエミッション)を目指し、他企業や自治体とともにSAFの国内製造促進と活用を注いできましたが、2025年5月、ついにこの取り組みが実を結び、国産SAFが関西国際空港にて初めて旅客便に供給されました。記念すべき第1号は、上海(浦东)行きJL891便。関西国際空港における旅客便へのSAF供給についても、これが初めてのこととなります。

注目の代替燃料  
SAFは何から作られる？

そもそも、SAFとはどのようなものなので

でしょうか？ SAFは原油からではなく、使用済みの食用油(廃食油)、農産物の食べられない部分、森林残査、都市ごみ、獣脂などから作られます。SAFを利用するにあたり航空機や給油設備を変更する必要がない上に、原料の生産・調達から製造、輸送、燃焼までのライフサイクル全体で、CO<sub>2</sub>排出量を従来の航空燃料と比較して約60〜80%削減できることから、環境にやさしい燃料として注目されてきました。

## 進む国産SAFの導入

JALグループでは、2030年度に全燃料の10%をSAFに置き換える計画を掲げており、その実現には国産SAFの量産と安定供給が不可欠です。そのため、JALグループは2023年から日揮ホールディングスが主導する「Fry to Fly Project」に参画し、家庭や店舗などで発生する廃食油という国内資源を原料にSAFを製造し、「廃食油で航空機が空を飛ぶ」世界をパートナー企業とともに目指してきました。Fry to Fly Projectを通じて大阪府堺市の製油所で量産が開始されたSAFは、先述した関西国際空港に続き、今年7月からは東京国際空港(羽田)や成田国際空港、中部国際空港発の定期旅客便へも継続的な供給がスタートしています。「天ぷら油で空を飛ぶ」のは、遠い未来の話ではないのです。

JALグループはこれからも、志を同じくするお客さま、パートナー企業の皆さまと、脱炭素化の取り組みを進めてまいります。

今回のテーマに該当する目標



2015年9月、全国加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS